



j-bmpは、シンクネイチャーのフリーミアムサービスですが、民間企業様による本サイトの情報のご利用に関しては、お問合せください。

 <https://think-nature.jp/contact>



# 海域生物多様性

## Marine Biodiversity

日本の海にどのような生き物がどこに住んでおり、どこを重点的に守るべきかを調べるため、「海域生物多様性」の評価を行いました。今回は、海を以下の3つのエリア（生息環境）に分けて解析を実施し、その結果を示しています。

沿岸域：陸地から10km以内の浅い海

沖合域：水深200m未満の領海、および排他的経済水域（EEZ）

深海域：水深200m以上の深い海

### 【沿岸域】

クジラなどの海産哺乳類、ミズナギドリなどの海鳥類、ウミガメなどの海産爬虫類、魚類、棘皮動物であるナマコ類・ウニ類・ヒトデ類・クモヒトデ類・ウミユリ類、造礁サンゴであるイシサンゴ類、海藻類、エビやカニなどの甲殻類、貝類、クラゲやイソギンチャクなどの刺胞動物（イシサンゴ類を除く）の、計14のグループを対象としました。

海を「10km×10kmのマス目（メッシュ）」に区切り、それぞれのマス目に生き物が「いるか・いないか（在・不在）」を判定しました。なお、刺胞動物は細かな種類（種レベル）の見分けが難しいため、一歩手前の大きなグループ（属レベル）で解析し、それ以外の生き物は種類（種レベル）ごとに詳しく解析しています。

### 【沖合域】

沿岸だけでなく広く沖合に住む海産哺乳類、海鳥類、海産爬虫類、魚類に加え、イカやタコの仲間（頭足類）を対象としました。こちらは「10分グリッド（日本付近では約17km×18.5kmのマス目）」ごとに、それぞれの種類がいるか・いないかを判定しました。

### 【深海域】

深海にすむすべての生き物のグループを対象としました。「10分グリッド（約17km×18.5kmのマス目）」ごとに、属レベルの単位で生き物があるか・いないかを判定しました。

さらに、「日本の海の生き物を豊かに保ち、絶滅のリスクを最小限に抑えるために、どこが重要な地域か」を明らかにするため、Zonation（ゾーンネーション）と呼ばれる計算プログラムを使い、それぞれの分類群ごとに「保全の優先地域」を点数化（スコアリング）しました。



株式会社シンク・ネイチャー <https://think-nature.jp/>  
〒901-2102  
沖縄県浦添市前田3丁目15番10号 Ocean Current 202